

主な出来事※

【内政】

- ゾウの密猟に関する報道
- 資産及び債務開示法の制定が迫る
- 独立52周年を祝う

【外政】

- マシシ大統領, 習近平国家主席と会談
- ボツワナとナミビアが条約に署名
- ダライ・ラマがボツワナ訪問することはない
- マシシ大統領国連総会演説

【経済】

- 2018年のデブスワナ社のダイヤモンド生産量, 約2400万カラットに
- ボツワナ産牛肉をセーシェルに輸出へ
- 2019/20年度予算戦略説明会の開催

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

【内政】

○ ゾウの密猟報道

9月3日, BBC及びその他海外メディアにより, ボツワナで87頭のゾウが象牙目的で殺害されたとの情報が配信され, ソーシャルメディア上で本件に関する議論が過熱した。ボツワナ政府は, 本報告を行った「国境なきゾウたち」の情報は間違いであり誤解を生むものだとし, 19日, メディアを招待し国立公園において事実確認調査を実施した。(当地各紙で報道)

○ 資産及び債務開示法の制定が迫る

マシシ大統領は, 第15回国家ビジネス会議の席で, 資産及び債務開示法案が直に国会に提出されるだろうと語った。これは, 政治家や政府高官をターゲットにしたもので, 腐敗をなくすのが狙い。(11日:デイリー・ニュース紙)

○ 独立52周年を祝う

30日, ボツワナの独立52周年記念式典が国立競技場で開催され, 大統領, 副大統領, 青少年地位向上・スポーツ文化開発大臣, 国会議長, 最高判事及び外交団などがゲストとして参加した。マシシ大統領は, 演説の中で2019年総選挙のための投票者登録が実施中であることに触れ, 皆が登録し2019年の総選挙で憲法上の権利を行使するよう呼びかけた。(10月3日:デイリー・ニュース紙)

【外交】

○ マシシ大統領, 習近平国家主席と会談

FOCACに参加したマシシ大統領は, 習近平主席と首脳会談を行った。会談後, マシシ大統領は「習近平主席のアフリカに対する政策や接し方には, 条件や押しつけがなく, 自分(「マ」)はこれまで常に賞賛してきた。中所得国であるボツワナは, 高所得化を目指し外国直接投資を呼び込むため, 中国との二国間関係強化を要する。FOCACにおけるボツワナの提案は, 周辺国と接合することで貿易を促進させる道路・鉄道等のインフラ開発事業である」と述べた。また, 首脳会談に続いてダウ外務国際協力大臣は以下の覚書に署名した:(1)ボツワナ公務員管理局(DPSM)と中国国際開発協力機構による人材育成, (2)外交・公用旅券所持者に対するビザの免除措置, (3)経済貿易投資技術協力, (4)経済技術協力。(3日:デイリー・ニュース紙)

○ 600億米ドルをアフリカへ

ダウ外務国際協力大臣はインタビューに答え, ボツワナはアフリカ諸国とFOCACに参加し, 中国のみならず, 同会合中に他国ともパートナーシップを結んだ旨発言した。また, 同大臣はボツワナの二百万の人口だけでは外国直接投資を大きく増やすことができないため, アフリカ諸国と協調することでボツワナが発展し, 国際的な未来を達成できると発言した。(5日:デイリー・ニュース紙)

○ 中国訪問は成功

マシシ大統領は3日間の国賓訪中を投資家からの信頼を強化することを意図した四つの合意を締結し, 成功したと表現した。同大統領はインタビューの中で習近平主席との会談で未来の共有と戦略的な重要性と共に強固な関係を築くことに同意し, 援助からの移行期間にあるボツワナは貿易ネットワークにより焦点を当て, 高所得国になるために不断の努力をする必要がある旨発言した。同大統領が中国の習主席と会談した結果, ボツワナは3億4000万プラ以上の無償資金協力と8000万プラの債務免除を得ることができた。(7日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナとナミビアが条約に署名

両国は, 犯人引渡条約及び犯罪に関する相互補助条約の二つに署名した。これにより, 犯人の追跡, 犯罪の抑制及び財産の没収がより容易となる。(12日:デイリー・ニュース紙)

○ モレフィ大臣, アナン元国連事務総長の葬儀に参加

13日, モレフィ大統領府・統治・公共政策担当大臣はボツワナを代表し, アクラで開催されるアナン元国連事務総長の国葬に参加する。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ ダライ・ラマがボツワナを訪問することはない

11日, ホイツェマン外務次官は, 公共開示委員会において, ボツワナは「一つの中国」政策を全

面的に支持するとし、ダライ・ラマがチベットの指導者としてボツワナを訪問するのであれば、それは不可能である旨述べた。(14日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ 新外交使節の任命

マシシ大統領は現在アディスアベバの国連アフリカ経済委員会の職員代表を務めるコレン・ケラピレ氏(Mr. Collen Kelapile)を国連常駐代表に、テボゴ・モツォメ氏(Ms. Tebogo Motshome)を駐ブラジル・ボツワナ大使に任命した。また、長年駐英国ボツワナ高等弁務官を勤めたロイ・ブラックピアード氏が退職することになった。(24日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領, マンデラ平和サミットに参加

24日, 国連総会の際に開催されたマンデラ平和サミットに参加したマシシ大統領は演説を行い, マンデラ大統領の功績を称えた。(26日:デイリー・ニュース紙)

○ ミラー米大使, 阿部書記官, ボウムEU大使がボツワナを去る

ミラー米大使, ボウムEU大使(ドイツ国籍)及び日本の阿部書記官がボツワナでの任務を終了した。(28日:ガーディアン紙)

○ トランプ米大統領からマシシ大統領への独立記念日の祝辞

トランプ米大統領はボツワナの独立記念日に際し, マシシ大統領に祝辞を送り, 「アメリカ合衆国を代表し, 9月30日のボツワナ独立記念日に際し貴殿及びボツワナ国民の皆様に祝辞を申し上げます。ボツワナはこれまでもそして今でも合衆国にとって最も価値があり信頼のおける南アフリカ諸国の一つである。地域, あるいはそれを超えて, 平和及び安定の象徴である。我々は今後もボツワナ及び合衆国の人々のためにボツワナと協力関係を維持していく。」と述べた。(28日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領の国連総会演説

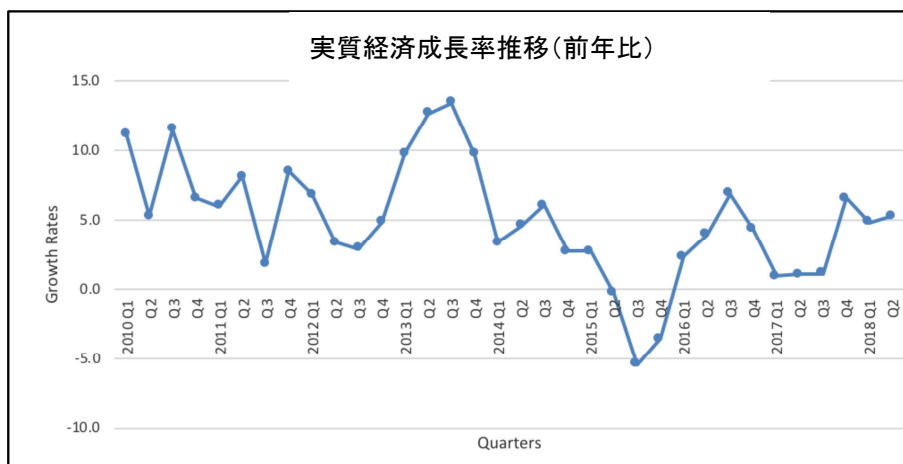
27日, マシシ大統領は国連総会で一般演説を行った。ボツワナが「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の達成に向け努力することを再確認し, ボツワナのビジョン2036が右アジェンダの内容と一致させてあること, SDGの実行とモニタリングのために国立運営委員会(National Steering Committee)を設置したこと, さらにボツワナ政府が2017年~23年にかけて適用する「ボツワナSDGロードマップ: SDGの実行に向けた指針」を作成したことなど, 国内での取組を中心に紹介した。(10月3日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

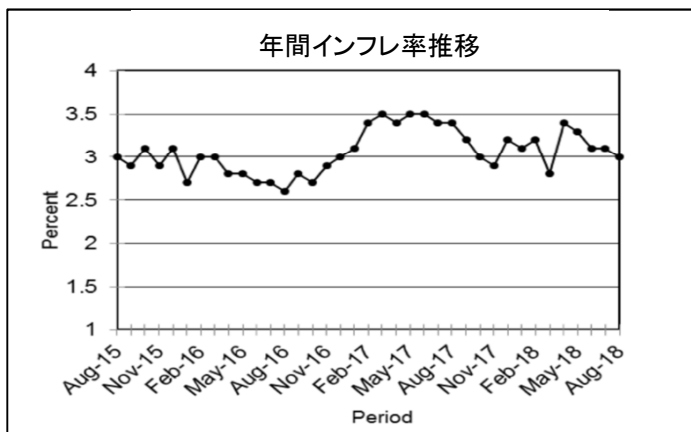
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2018年第2四半期の GDP は473億6270万プラとなり、第1四半期(461億5250万プラ)と比べて2.4%となった。(2017年GDP合計は1801億1270万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2018年9月は2.9%(8月は3.0%)。

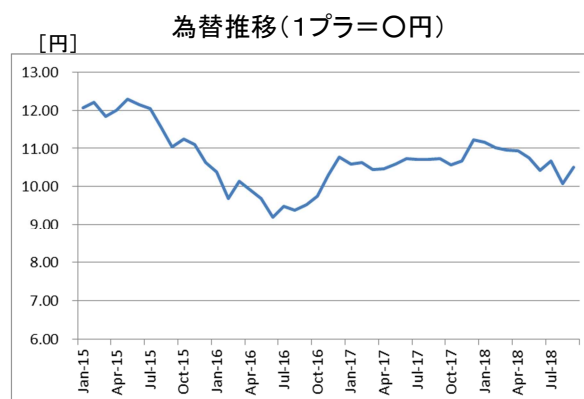
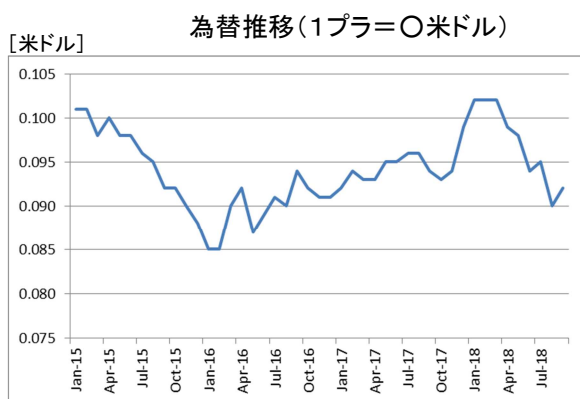


3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2018年9月28日

1プラ=0.092米ドル
1プラ=1.280南ア・ランド
1プラ=10.51円

2018年8月31日
1プラ=0.090米ドル
1プラ=1.314南ア・ランド
1プラ=10.08円



○ ダイヤモンド産業

1) 2018年のデブスワナ社のダイヤ生産量, 約2400万カラットに

デブスワナ社(当館注:ボツワナ政府とデビアス社との合弁企業)は, ポジティブな世界的なダイヤモンド需要を見越して2018年には2380万カラットのダイヤモンドを生産する見込みであり, 国内経済の見通しにも好影響を与える見通しである。2380万カラットの生産が達成されれば, 2420万カラットの生産を達成した2014年以来, 最も多い生産量となる見込みである。(14日:メヒ紙)

2) デブスワナ社, 死亡事故を調査

デブスワナ社のオラパ, レタカネ, ダムツァ鉱山経営陣は13日にオラパ鉱山で起こった死亡事故について調査を行っている。同社の報道発表によると, 建設現場で監視員として働いていた Kalcon Excavator Hire 社の従業員が亡くなった。事故の原因については判明しておらず, 調査は継続中である。(17日:デイリー・ニュース紙)

3) デビアス社との交渉を前に関心高まる

ボツワナ政府とデビアス社とのダイヤモンド売買等に係る合意は2020年9月で期限が切れるが, 政府の交渉人はデビアス社から可能な限り多くの譲歩を引き出すことを切望していると言われていいる。同交渉の重要な焦点としては, デブスワナ社から購入するダイヤモンドの価格を決定する極秘の価格表への更なるアクセス, 同価格表への影響, 付加価値をつける際の料金への影響, ダイヤモンド販売会社(DTC)にデビアス社以外からの宝石を提供できるようにすること等が挙げられる。(28日:メヒ紙)

○ エネルギー・資源

1) モルブレA・B石炭火力発電所の発電増加

ボツワナ統計局によると, 2018年第2四半期の発電量は主にモルブレA・B石炭火力発電所の発電量が増加したため, 第1四半期に比べ約20%上昇した。第2四半期の施設別発電量の内訳は, モルブレB石炭火力発電所97.1%, モルブレA石炭火力発電所2.9%となり, 僅かながらマツェラハベディ緊急発電所(当館注:ディーゼル発電)でも発電した。(28日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ ボツワナ産牛肉をセーシェルに輸出へ

マシシ大統領は, ボツワナとセーシェルがボツワナ産牛肉をセーシェルに輸出する契約を結んだと公表した。同大統領は中国からの帰路においてセーシェルを訪問し, フォール大統領と面会した際, 牛肉輸出に係る契約を結んだ。これまでセーシェルに牛肉を輸出していた主な国はブラジルであったが, ブラジルの汚染牛肉スキャンダルにより, セーシェルはブラジルからの牛肉の輸入を停止していた。ボツワナはセーシェルと牛肉輸出に係る契約を結んだケニアと競い合うこととなる。

(15日:ウイークエンド・ポスト紙)

○ **2019／20年度予算戦略説明会の開催**

18日, 財務・経済開発省は2019／20年度予算戦略説明会を開催し, 2018／19年度の財政収支が45億プラの赤字に引き続き2019／20年度の財政収支も51億プラの赤字となることを予想した。財政赤字は対外債務及び国内債務によって賄われる予定である。(19日:デイリー・ニュース紙)

○ **政府, 新たな郵便宅配グループの設立へ**

昨年11月, 政府は運輸通信省傘下の準国営企業であるボツワナ郵便サービス社(Botswana Postal Services Ltd)及びボツワナ宅配社(Botswana Couriers and Logistics Ltd)の合併を承認したが, 合併に係る手続きは今財政年度内に完了する見込みである。(21日:ボツワナ・ガーディアン紙)